

働く意味、生徒考える

社会で活躍する卒業生に学び進路について考えようと、清真学園高(鹿嶋市宮中、柴山修二校長)で9日、キャリア教育講演会が開かれた。建設業の三洋産業(神栖市知手中央)CEO、大竹泰治郎さんが登壇。1年生約200人を前に自身の経験を語り、働くことの意味について深く問いかけた。

OB経営者問いかけ

清真学園高キャリア講演

大竹さんは1992年卒業の義し、経営について理解を深め、経営について理解を深めることにもつながったと物産(現日鉄物産)を経て、父親が創業した三洋産業に2011年入社した。

学生時代は音楽に打ち込んだが、プロではなく商社に就職する道を選んだ。「音楽は自分の存在証明だった。仕事でも顧客や社会に必要とされたくて、とにかく働いた」と語った。

経営に関心を持ち、外資系企業への転職を考えていた頃、米ニューヨークに拠点を作るため転勤を命じられる。新規開拓に苦戦する中、「企業」とは何かについて自問自答。「市場に価値を提供し続け、普遍的な仕組みで運営されるもの」と定

その後、父親から家業を継ぐ前提での帰郷を求められ、「自分が必要とされる場所に行くべき」と決心。これまでの経験から「仕事とは誰かに必要とされること。働くとは価値を創造し提供すること。その『価値』がお金になって返ってくる」と考えを述べた。

平岡泰祐さん(15)は「『価値をつくって提供するの働くこと』という考え方は新鮮だった。自分もやりたいことだけでなく、必要とされることを意識して進路を考えたい」と話していた。

(村田知宏)



生徒を前に講演する大竹泰治郎さん＝鹿嶋市宮中